

令和6年12月9日

市政記者クラブ 様

中区役所区政部地域力推進課
担当：只井、西内（電話：265-2220）

区役所が仕掛ける新たなムーブメント ディープなまちの記憶を辿る ポップなまちフォトさんぽ

中区のまちなかを散歩しながら、“レトロかわいい”を写真にパチリ。いつも歩いている道も、通ったことのない道も、違う目線でまちを切り取ると、知らなかった新しい発見がいっぱい！まちの記憶にふれるとき、きっと、このまちを好きになる。



中区の「まちの記憶」を辿るイベントを開催

【喫茶編】12月17日（火）

- ①12:00～13:00 モカ珈琲店（中区大須2-18-18）
- ②17:00～18:00 珈琲処カラス（中区栄1-12-2）



【建築編】12月18日（水）

- ①10:30～11:30 喫茶新潟（中区千代田5-22-38）
- ②14:30～16:00 THE CONDER HOUSE（中区錦2-20-25）



【文化編】12月20日（金）

- ①14:00～15:00 西別院（中区門前町1-23）
- ②17:00～18:00 西別院（中区門前町1-23）



※狭い会場もありますので、取材にお越しの際は事前に中区役所地域力推進課へご連絡ください。
※写真はイメージです。

中区のまちの魅力を発見！フォトコンテストを開催

開催期間：令和6年12月2日（月）～27日（金）

参加方法：① 公式Instagramをフォロー

② 中区のまちを撮影

③ 「#中区まちなかSNAP」をタグ付けして自分のアカウントに投稿



詳しくは、公式サイトとInstagramをチェック

公式サイト



Instagram

@find_naka_nagoya



～中区まちの記憶を呼び起こす事業について～

1 事業実施の背景

今の中区のまちは、交通の便利が良くて、おしゃれなカフェや洗練されたビルがたくさんあるといったイメージを持っている方が多いようです。

しかし、今日常的に目に触れるまち並みの中区に至るまでには、様々なまちの変遷があり、時代とともに変化した風景や、そのまちとともに歩んできた人それぞれにある思い出のように、中区の「まちの記憶」がたくさんあります。

そんな中区の「まちの記憶」に触れて身近に感じることで、自分の住んでいる地域の魅力に気づき、中区のまちをもっと好きになる人がどんどん増えるのではと考えた中区役所は、中区に多く暮らす20代から40代の若い世代を対象に、令和5年度から「中区まちの記憶を呼び起こす事業」を始動しました。

まちの歴史を大事にしたまちづくりや情報発信等実績のあるアドバイザーと一緒に事業を企画し、若者に対して響くような様々な視点や切り口からのイベントを実施したり、情報発信を重ねていくことで、中区のまちの記憶に触れる区民・若者が徐々に増えて、点から面にジワジワと区民に広がるムーブメントを起こし、中区への愛着や誇りの醸成を目指します。

2 事業の経緯

令和5年度はターゲット層である若い世代に興味を持ってもらいやすい老舗をテーマに「あるくなくく 中区の老舗をめぐる 100日間」を実施しました。

9つのワークショップを行い92名が参加されましたが、参加者の事業に対する満足度は高かったものの、事業の認知度が低く、事業の広がりが芳しくありませんでした。

3 今年度事業「レトロかわいいまちフォトさんぽ」について

今年度は、ターゲット層の情報源となっているInstagramに着目し、喫茶や建築、文化などノスタルジックな世界あふれる中区のまちを歩きながら“レトロかわいい”を発見して写真に収め、Instagramへ投稿する「レトロかわいいまちフォトさんぽ in 中区」を実施することにいたしました。

いつも歩いている道や通ったことのない道を歩きながら、写真のレンズを通して違う目線でまちを切り取ってもらうことで、まちの新たな魅力を発見し、Instagramへ発信してもらうことで、ジワジワと中区の魅力が広がっていくことを狙いとします。